

(2) 指標評価シート

1	生活習慣病の早期発見と発症予防・重症化予防	ページ
(1)	がん.....	66
(2)	循環器疾患.....	72
(3)	糖尿病.....	79
(4)	肝疾患（肝臓がん、ウイルス性肝炎を除く）.....	84
2	生涯を通じた健康づくり	
(1)	次世代の健康.....	87
(2)	働き盛り世代の健康.....	92
(3)	高齢者の健康.....	104
3	生活習慣の改善	
(1)	①食生活.....	106
	②身体活動.....	113
(2)	①休養.....	120
	②こころの健康.....	124
(3)	アルコール.....	126
(4)	タバコ（COPD）.....	130
(5)	歯・口腔の健康.....	138

指標: 1 がん検診受診率向上(胃がん検診)

目標値: 40%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	575,963	647,256
割合	6.7%	5.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して1.1ポイント減少(片側P値<0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- H27年地域保健・健康増進報告による全国の実受診率は6.3%となっており、全国と比較すると0.7%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 中間評価値が目標に向けて悪化している		
		D

指標: 2 がん検診受診率向上(大腸がん検診)

目標値: 40%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	575,961	648,748
割合	11.5%	12.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.8ポイント増加(片側P値<0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- H27年地域保健・健康増進報告による全国の実受診率は13.8%となっており、全国と比較すると1.5%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 中間評価値が目標に向けて改善している		
		B

指標:3 がん検診受診率向上(肺がん検診)

目標値: 40%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	575,963	648,806
割合	15.0%	15.1%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.061
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.1ポイント増加(片側P値=0.061)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実受診率は11.2%となっており、全国と比較すると3.9%高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
数値は増加しているが改善しているとはいえない。		C

指標:4 がん検診受診率向上(乳がん検診)

目標値: 50%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	306,522	339,322
割合	18.4%	12.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して5.5ポイント減少(片側P値<0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実受診率は20%となっており、全国と比較すると7.1%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
中間評価値が目標に向けて悪化している		D

指標:5 がん検診受診率向上(子宮頸がん検診)

目標値: 50%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	448,295	479,281
割合	21.9%	17.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して4.2ポイント減少(片側P値<0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実診率は23.3%となっており、全国と比較すると5.6%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
中間評価値が目標に向けて悪化している		D

指標:6 がん検診精密検査受診率向上(胃がん)

目標値: 100%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	3,958	2,445
割合	63.3%	61.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.114
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して1.5ポイント減少したが、有意差は認められない(片側P値=0.114)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実診率は79.5%となっており、全国と比較すると17.7%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
数値は減少しているが悪化しているとはいえない。		C

指標:7 がん検診精密検査受診率向上(大腸がん)

目標値: 100%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	3,992	5,499
割合	56.0%	58.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.013
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して2.3ポイント増加(片側P値=0.013)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実受診率は66.9%となっており、全国と比較すると8.6%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
中間評価値が目標に向けて改善した。		B

指標:8 がん検診精密検査受診率向上(肺がん)

目標値: 100%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	3,433	2,919
割合	61.0%	66.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して5.4ポイント増加(片側P値<0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実受診率は79.8%となっており、全国と比較すると13.4%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
中間評価値が目標に向けて改善した。		B

指標:9 がん検診精密検査受診率向上(乳がん)

目標値: 100%

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	3,442	3,081
割合	72.6%	75.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.004
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して2.9ポイント増加(片側P値=0.004)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実診率は85.1%となっており、全国と比較すると9.6%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
中間評価値が目標に向けて改善した。		B

指標:10 がん検診精密検査受診率向上(子宮頸がん)

目標値: 100%

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	H27年地域保健・健康増進報告
対象者数	533	1,210
割合	66.1%	68.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.219
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して1.9ポイント増加したが、有意差は認められない(片側P値<0.219)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)に基づき、40歳以上とされていたがん検診受診率算定対象年齢が40歳から69歳までとされた。しかし、今回はベースライン時(H22)の対象設定(40歳以上)に合わせて中間評価を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
H27年地域保健・健康増進報告による全国の実診率は72.4%となっており、全国と比較すると4.4%低くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
数値は増加したが改善しているとはいえない		C

指標: 11 **がん検診の充実**
がん検診の事業評価を行っている市町村数(検診チェックリストの活用)

目標値: 100%

	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成22年度	平成27年度
調査名	H22年地域保健・健康増進報告	チェックリストの使用に関する実態調査
調査人数		
割合	24.0%	100.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して76ポイント増加		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし		
(3)その他データ分析に係るコメント		
なし		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ベースライン時に設定した指標が中間評価時と把握方法が異なるため評価が困難。 ※ただし、ベースラインを「H22年市町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」から算出すると、48.7%(20市町村参加)である。H27同調査では、100%(41市町村参加)であることから目標値に達しており評価は「E-a」と考えられる。		
		E-a

指標: 1-① LDLコレステロール160mg/dl以上の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	110,837	123,010
割合	11.5%	11.1%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.001
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に比較して0.4ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国のLDLコレステロール160mg/dl以上の割合は12.4%であり、全国と比較すると1.3%低くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合の評価は「E-a」になると考えられる。</p>		
		E-a

指標: 1-② LDLコレステロール160mg/dl以上の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	103,655	117,649
割合	13.2%	12.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に比較して0.6ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国のLDLコレステロール160mg/dl以上の割合は13.5%であり、全国と比較すると0.9%低くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合の評価は「E-a」になると考えられる。</p>		
		E-a

指標: 2-① 中性脂肪150mg/dl以上の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	110,876	122,995
割合	35.3%	32.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に対して2.5ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国の中性脂肪150mg/dl以上の割合は28.6%であり、全国と比較すると4.2%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合は改善傾向がみられるため、評価は「E-a」になると考えられる。</p>		E-a

指標: 2-② 中性脂肪150mg/dl以上の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成28年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	103,687	117,649
割合	16.2%	15.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に対して0.8ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国の中性脂肪150mg/dl以上の割合は12.5%であり、全国と比較すると2.9%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合の評価は「E-a」になると考えられる。</p>		E-a

指標:3-① メタボリックシンドローム該当者の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成26年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ
調査人数	110,999	134,143
割合	26.7%	25.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.8ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータによると、全国のメタボリックシンドローム該当者の割合は21.2%であり、全国と比較すると4.7%高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
改善しており、目標を達成している。		A

指標:3-② メタボリックシンドローム該当者の割合の減少(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成26年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ
調査人数	103,786	125,913
割合	8.6%	8.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.005
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.3ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータによると、全国のメタボリックシンドローム該当者の割合は6.2%であり、全国と比較すると2.1%高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
改善しており、目標を達成している。		A

指標: 4-① メタボリックシンドローム予備群の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成26年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ
調査人数	110,999	134,143
割合	22.3%	21.2%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して1.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータによると、全国のメタボリックシンドローム予備群の割合は17.3%であり、全国と比較すると3.9%高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 改善しており、目標を達成している。		
		A

指標: 4-② メタボリックシンドローム予備群の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成26年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ
調査人数	103,786	125,913
割合	9.1%	7.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して1.2ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータによると、全国のメタボリックシンドローム予備群の割合は5.1%であり、全国と比較すると2.8%高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 改善しており、目標を達成している。		
		A

指標：5－① メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)を認知している県民の増加(15歳以上男性)

目標値： 100%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	760	826
割合	57.5%	57.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.484
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に比較して0.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
ベースライン値に比べて20歳代以下の世代では増加傾向にあるが、それ以上の世代では減少か横ばいの傾向である。 ベースライン値：15-19歳27.3%、20歳代47.1%、30歳代58.8%、40歳代67.0%、 50歳代68.1%、60歳代66.0%、70歳以上49.3% 計57.5% 直近値：15-19歳34.7%、20歳代63.3%、30歳代54.3%、40歳代59.6%、 50歳代68.1%、60歳代64.7%、70歳以上48.1% 計57.6%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標：5－② メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)を認知している県民の増加(15歳以上女性)

目標値： 100%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	825	918
割合	59.8%	64.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.027
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に比較して4.5ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
40歳代、50歳代以外の年代では増加している。 ベースライン値：15-19歳23.5%、20歳代56.9%、30歳代56.5%、40歳代74.5%、 50歳代72.7%、60歳代73.5%、70歳以上44.7% 計59.8% 直近値：15-19歳52.5%、20歳代66.2%、30歳代62.9%、40歳代71.7%、 50歳代70.3%、60歳代74.7%、70歳以上47.2% 計64.3%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
目標には到達していないが、改善している。		B

指標: 6-① 収縮期血圧値140mmHg以上の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	110,872	123,038
割合	21.2%	18.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に比較して2.3ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国の収縮期血圧140mmHg以上の割合は19.0%であり、全国と比較すると0.1%低くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合は目標を達成しているため、「E-a」になると考えられる。</p>		E-a

指標: 6-② 収縮期血圧値140mmHg以上の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	103,676	117,653
割合	16.3%	15.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に比較して1.3ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国の収縮期血圧140mmHg以上の割合は14.9%であり、全国と比較すると0.1%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合は目標を達成しているため、「E-a」になると考えられる。</p>		E-a

指標: 7-① 拡張期血圧値90mmHg以上の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	110,845	123,035
割合	17.8%	15.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に比較して2.2ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国の拡張期血圧90mmHg以上の割合は15.5%であり、かわらない。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合は目標を達成しているため、「E-a」になると考えられる。</p>		E-a

指標: 7-② 拡張期血圧値90mmHg以上の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	103,668	117,647
割合	8.2%	7.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に対して0.9ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国の拡張期血圧90mmHg以上の割合は7.1%であり、全国と比較すると0.2%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合は目標を達成しているため、「E-a」になると考えられる。</p>		E-a

指標: 1-① HbA1c(NGSP値)6.5以上8.4未満の者の割合(男性)

目標値: 25%減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	73,631	86,585
割合	7.9%	7.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に対して1.2ポイント(減少率は15.2%)減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国のHbA1c6.5以上8.4未満の割合は4.9%であり、全国と比べて2.4%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合の評価は目標には到達しないが、改善がみられるため「E-b」になると考えられる。</p>		E-b

指標: 1-② HbA1c(NGSP値)6.5以上8.4未満の者の割合(女性)

目標値: 25%減少

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	79,960	92,732
割合	4.9%	4.2%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に対して0.8ポイント(減少率は16.3%)減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国のHbA1c6.5以上8.4未満の割合は2.6%であり、全国と比較すると1.6%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合の評価は目標には到達しないが、改善がみられるため「E-b」になると考えられる。</p>		E-b

指標: 2-① HbA1c(NGSP値)8.4以上の者の割合(男性)

目標値: -

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	73,631	86,585
割合	2.0%	1.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に対して0.5ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国のHbA1c8.4以上の割合は1.0%であり、全国と比べて0.5%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合の評価は改善がみられるため「E-b」になると考えられる。</p>		E-b

指標: 2-② HbA1c(NGSP値)8.4以上の者の割合(女性)

目標値: -

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	レセプト情報・特定健診等情報データベース
調査人数	79,960	92,732
割合	1.0%	0.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値は、ベースライン値に対して0.2ポイント減少している。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>ベースライン値に設定した厚生労働省「特定健診・特定保健指導に関するデータ」において、当該項目の更新がないため、類似の調査として「レセプト情報・特定健診等情報データベース」の値を用いた。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベースによると、全国のHbA1c8.4以上の割合は0.8%であり、全国と比較すると0.4%高くなっている。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>ベースライン値と直近値を出した調査が異なるため、単純比較が困難。 ※ただし、類似の調査であることから、比較した場合の評価は改善がみられるため「E-b」になると考えられる。</p>		E-b

指標:3-① 糖尿病治療継続者の割合(男性)

目標値: 増加

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	73	80
割合	68.5%	75.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.186
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して6.5ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
<ul style="list-style-type: none"> 対象者が少ない30歳代を除くと40、50歳代の治療率が低い傾向にある。 ベースライン値:20歳代なし、30歳代100%、40歳代63.6%、50歳代53.8%、60歳代64.0%、70歳以上81.0% 計 68.5% 直近値:20歳代なし、30歳代33.3%、40歳代85.7%、50歳代45.5%、60歳代80.0%、70歳以上82.8% 計 75.0% 平成26年国民健康・栄養調査によると全国の治療継続者の割合は74.4%である。 		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標:3-② 糖尿病治療継続者の割合(女性)

目標値: 増加

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	51	54
割合	76.5%	77.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.437
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して1.3ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
<ul style="list-style-type: none"> 対象者が少ない30歳代以下を除くと40、50歳代の治療率が低い傾向にある。 ベースライン値:20歳代なし、30歳代100%、40歳代42.9%、50歳代100%、60歳代70.0%、70歳以上90.5% 計 76.5% 直近値:20歳代なし、30歳代100%、40歳代42.9%、50歳代40.0%、60歳代72.2%、70歳以上100% 計 77.8% 平成26年国民健康・栄養調査によると全国の治療継続者の割合は73.5%である。 		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標:4 糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成22年	中間評価時 平成27年
調査名	わが国の慢性透析療法の現況	わが国の慢性透析療法の現況
人数	232	219
対10万人	16.7	15.3
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して患者数が13人減少、人口10万人あたりでは1.4人減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
全国はH27糖尿病性腎症の新規導入者は10万人あたり12.6人である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
改善している。		B

指標:5 特定健診受診率の向上

目標値: 70%

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成26年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ
調査人数	512,894	553,859
割合	41.9%	47.0%
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して5.1ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータによると、沖縄県が(H23)43.9%、(H24)45.9%、(H25)45.3%、全国が(H22)42.6%、(H23)44.0%、(H24)45.6%、(H25)47.1%、(H26)48.6%と推移している。沖縄県と全国ともに増加傾向にあり、全国と比較すると沖縄県がやや下回ってはいるが全国並である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
目標には到達していないが、改善している。		B

指標:6 特定保健指導実施率の向上

目標値: 85%

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成26年度
調査名	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ	特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ
調査人数	53,105	52,693
割合	18.6%	30.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して11.9ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 特になし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータによると、沖縄県が(H23)22.9%、(H24)25.1%、(H25)33.9%、 全国が(H22)13.3%、(H23)15.3%、(H24)16.8%、(H25)18.0%、(H26)17.8%と推移している。沖縄県と全国ともに増 加傾向にあり、全国と比較すると沖縄県が上回っている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 目標には到達していないが、改善している。		
		B

指標: 1-① γ GTP51U/I以上の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40~64歳)	国保連合会特定健診データ(40~64歳)
調査人数	24,511	23,753
割合	35.0%	35.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.179
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値は、ベースライン値に対して0.4ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 計画策定時の数値は事務局で算定したものをういていたが、国保連合会提供データの数値と差異があったため、策定時の数値を変更した。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率は沖縄県男性が18.7であり、都道府県順位で47位と最も悪い。 ・平成27年アルコール性肝疾患による死亡率(人口10万対)は、沖縄県13.5、全国6.7と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 変わらない。		
		C

指標: 1-② γ GTP51U/I以上の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40~64歳)	国保連合会特定健診データ(40~64歳)
調査人数	27,848	24,747
割合	11.0%	11.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.001
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値は、ベースライン値に対して0.9ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 計画策定時の数値は事務局で算定したものをういていたが、国保連合会提供データの数値と差異があったため、策定時の数値を変更した。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率は沖縄県女性が6.0であり、都道府県順位で47位と最も悪い。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県2.1、全国0.9と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 悪化している。		
		D

指標: 2-① AST(GOT)31u/l以上の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40~64歳)	国保連合会特定健診データ(40~64歳)
調査人数	24,155	23,753
割合	18.6%	19.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して1.2ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 計画策定時の数値は事務局で算定したものをういていたが、国保連合会提供データの数値と差異があったため、策定時の数値を変更した。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率は沖縄県男性が18.7であり、都道府県順位で47位と最も悪い。 ・平成27年アルコール性肝疾患による死亡率(人口10万対)は、沖縄県13.5、全国6.7と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 悪化している。		
		D

指標: 2-② AST(GOT)31u/l以上の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40~64歳)	国保連合会特定健診データ(40~64歳)
調査人数	27,849	24,747
割合	9.4%	9.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.060
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.4ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 計画策定時の数値は事務局で算定したものをういていたが、国保連合会提供データの数値と差異があったため、策定時の数値を変更した。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率は沖縄県女性が6.0であり、都道府県順位で47位と最も悪い。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県2.1、全国0.9と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標:3-① ALT(GPT)31u/l以上の割合(男性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40~64歳)	国保連合会特定健診データ(40~64歳)
調査人数	24,155	23,753
割合	30.4%	30.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.406
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 計画策定時の数値は事務局で算定したものをういていたが、国保連合会提供データの数値と差異があったため、策定時の数値を変更した。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率は沖縄県男性が18.7であり、都道府県順位で47位と最も悪い。 ・平成27年アルコール性肝疾患による死亡率(人口10万対)は、沖縄県13.5、全国6.7と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標:3-② ALT(GPT)31u/l以上の割合(女性)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40~64歳)	国保連合会特定健診データ(40~64歳)
調査人数	27,849	24,747
割合	13.2%	13.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.368
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.1ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 計画策定時の数値は事務局で算定したものをういていたが、国保連合会提供データの数値と差異があったため、策定時の数値を変更した。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率は沖縄県女性が6.0であり、都道府県順位で47位と最も悪い。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県2.1、全国0.9と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標:1 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合(小5男子)

目標値: 増加 (後期目標:増加)

年次	ベースライン時 平成26年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査	H28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
調査人数	7427	7430
割合	7.9%	7.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.325
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から質問内容に変更があり、「運動やスポーツをどのくらいしているか」の質問がなくなっており、結果とりまとめがおこなわれていないため、割合いを把握できない。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>(計画策定時)運動やスポーツを週に3日以上している児童の割合を指標とし、「増加」を目標としていた。 (変更案)1週間の総運動時間が60未満の児童の割合を指標とし、「減少」を目標とすることで、直近実績値も把握できる。また、最終評価も実施できると思われる。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント ★運動やスポーツを週3日以上している児童の割合 (H22ベースライン)64.1% ⇒ (H25実績値)62.5% ★1週間の総運動時間が60未満の児童の割合 (H26ベースライン)7.9% ⇒ (H28直近実績値)7.7%</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p>		
<p>計画策定時の指標を用いると評価困難。 変更案の指標を用いると減少傾向となる。</p>		E-c

指標:2 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合(小5女子)

目標値: 増加 (後期目標:増加)

年次	ベースライン時 平成26年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査	H28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
調査人数	7324	7156
割合	17.1%	15.2%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.001
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から質問内容に変更があり、「運動やスポーツをどのくらいしているか」の質問がなくなっており、結果とりまとめがおこなわれていないため、割合いを把握できない。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>(計画策定時)運動やスポーツを週に3日以上している児童の割合を指標とし、「増加」を目標としていた。 (変更案)1週間の総運動時間が60未満の児童の割合を指標とし、「減少」を目標とすることで、直近実績値も把握できる。また、最終評価も実施できると思われる。</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント 変更前★運動やスポーツを週3日以上している児童の割合 (H22ベースライン)35.8% ⇒ (H25実績値)36.5% 変更後★1週間の総運動時間が60未満の児童の割合 (H26ベースライン)17.1% ⇒ (H28直近実績値)15.2%</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p>		
<p>計画策定時の指標を用いると評価困難。 変更案の指標を用いると、有意に減少しており前期目標を達成している。</p>		E-a

指標:3 朝食を欠食する児童生徒の割合の減少(小学5年生)

目標値: 減少 (後期目標:減少)

年次	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H24年児童生徒の体力・運動能力・泳力調査・H28年児童生徒の体力・運動能力・泳力調査	
調査人数	7,066	5,915
割合	11.7%	13.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.0006
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より1.9ポイント増加し、有意な差が見られた(片側P値=0.0006)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 健康おきなわ21(第2次)計画の現状値欄には、「11.8%」と記載があるが、担当課に数値を確認したところ、平成24年度の小学5年生の欠食者の割合は「11.7%」ということだったので、ベースライン値を修正している。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 悪化している。 前期目標の減少とは逆行し、欠食者は増加した。		D

指標:4 朝食を欠食する児童生徒の割合の減少(中学2年生)

目標値: 減少 (後期目標:減少)

年次	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H24年児童生徒の体力・運動能力・泳力調査・H28年児童生徒の体力・運動能力・泳力調査	
調査人数	6,869	10,265
割合	16.9%	18.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.0057
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より1.5ポイント増加し、有意な差が見られた(片側P値=0.0057)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 悪化している。 前期目標の減少とは逆行し、欠食者は増加した。		D

指標:5 朝食を欠食する児童生徒の割合の減少(高校2年生)

目標値: 減少 (後期目標:減少)

年次	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H24年児童生徒の体力・運動能力・泳力調査	H28年児童生徒の体力・運動能力・泳力調査
調査人数	4,770	11,892
割合	27.5%	23.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より3.6ポイント減少し、有意な差が見られた(片側P値=0.000)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 前期目標を達成している。		
		A

指標:6 肥満傾向児(中等度、高度肥満傾向)にある子どもの割合(小5男子)

目標値: 減少 (後期目標:減少)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年学校保健統計調査	H28年学校保健統計調査
調査人数		
割合	5.98%	6.65%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より0.67ポイント増加した。 ※片側検定は無し。(小学5年生のみの調査対象者数が把握できないため)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ない。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 片側検定は実施していないが、実数としてベースライン値から増加したため、悪化傾向にある。		
		D

指標:7 肥満傾向児(中等度、高度肥満傾向)にある子どもの割合(小5女子)

目標値: 減少 (後期目標:減少)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年学校保健統計調査	H28年学校保健統計調査
調査人数		
割合	4.44%	3.18%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より1.26ポイント減少した。 ※片側検定は無し。(小学5年生のみの調査対象者数が把握できないため)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 片側検定は実施していないが、実数としてベースライン値から減少したため、前期目標を達成している。		
		A

指標:8 全出生中数中の低出生体重の割合

目標値: 全国平均以下 (後期目標:全国平均以下)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成23年度	平成27年度
調査名	人口動態調査	人口動態調査
調査人数	16918	16941
割合	10.6%	10.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.186
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より0.3ポイント増加したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.186)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント 平成23年度:全国平均9.6% 平成27年度:全国平均9.5% ベースライン値及び直近実績値ともに全国平均値より高い。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 変わらない。 以前として、全国平均よりも高い。		
		C

指標:9 食生活改善推進員が実施する各種教室等の開催数

目標値: 増加 (後期目標:増加)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	健康増進課調べ	健康長寿課調べ
回数	331	98
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より223回減少した。 ※片側検定は無し。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 平成28年度において、平成23年度よりも食生活改善推進員の数及び協議会の数が減少しているため、実績が下がった可能性がある。 成人を対象とした教室等が大幅に増加したため、子どもの健康に関する各種教室の開催数が減ったとも考えられる。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 片側検定は実施していないが、実数としてベースライン値から大幅に減少しているため、悪化傾向にある。		
		D

指標:10 学校における食育推進担当者数(栄養教諭等)

目標値: 増加 (後期目標:増加)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成24年度	平成28年度
調査名	保健体育課調べ	保健体育課調べ
人数	40	38
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より2人減少した。 ※片側検定は無し。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 平成25年度:40人 平成26年度:38人 平成27年度:38人		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 実数としてベースライン値から減少しているが、大幅な減少ではないため変わらないとする。		
		C

指標: 1-① LDLコレステロール160mg/dl以上の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,764	4,410
割合	8.8%	8.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.315
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に比較して0.3ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が20.02、全国男性が16.62であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄男性が19.66、全国女性が16.11と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 1-② LDLコレステロール160mg/dl以上の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,061	6,747
割合	3.0%	3.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.055
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に比較して0.5ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.12、全国女性が3.29であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄女性が7.89、全国女性が6.90と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 2-① 中性脂肪150mg/dl以上の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,762	4,410
割合	30.4%	28.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.019
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して2.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が20.02、全国男性が16.62であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄男性が19.66、全国女性が16.11と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 目標を達成している。		A

指標: 2-② 中性脂肪150mg/dl以上の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,061	6,747
割合	7.3%	7.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.333
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.2ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.12、全国女性が3.29であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄女性が7.89、全国女性が6.90と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		C

指標:3-① メタボリックシンドローム該当者の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,765	4,410
割合	9.9%	9.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.223
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.5ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が20.02、全国男性が16.62であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄男性が19.66、全国女性が16.11と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標:3-② メタボリックシンドローム該当者の割合の減少(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,063	6,747
割合	1.3%	1.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.500
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値に対して直近実績値の変化なし。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.12、全国女性が3.29であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄女性が7.89、全国女性が6.90と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 4-① メタボリックシンドローム予備群の割合(男性:20~64歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,765	4,410
割合	17.0%	17.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.237
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.6ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が20.02、全国男性が16.62であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄男性が19.66、全国女性が16.11と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		C

指標: 4-② メタボリックシンドローム予備群の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,063	6,747
割合	3.1%	3.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.169
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.3ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.12、全国女性が3.29であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄女性が7.89、全国女性が6.90と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		C

指標: 5-① 収縮期血圧値140mmHg以上の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,765	4,410
割合	5.6%	5.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.346
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に比較して0.2ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が20.02、全国男性が16.62であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄男性が19.66、全国女性が16.11と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		C

指標: 5-② 収縮期血圧値140mmHg以上の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,059	6,747
割合	1.6%	1.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.324
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に比較して0.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.12、全国女性が3.29であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄女性が7.89、全国女性が6.90と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		C

指標: 6-① 拡張期血圧値90mmHg以上の割合(男性: 20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,765	4,410
割合	7.1%	6.1%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.035
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に比較して1.0ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が20.02、全国男性が16.62であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄男性が19.66、全国女性が16.11と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 目標を達成している。		A

指標: 6-② 拡張期血圧値90mmHg以上の割合(女性: 20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,060	6,747
割合	1.9%	1.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.198
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.9ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ・平成27年の虚血性心疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.12、全国女性が3.29であり、全国に比べて高い状況にある。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)においても、沖縄女性が7.89、全国女性が6.90と全国に比べて高い状況にある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		C

指標: 7-① HbA1c(NGSP値)6.5以上8.4未満の者の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,764	4,410
割合	0.7%	0.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.288
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の糖尿病の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が4.75、全国男性が2.77であり、全国と比べるとかなり高い状況。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 7-② HbA1c(NGSP値)6.5以上8.4未満の者の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,060	6,746
割合	0.2%	0.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.019
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.2ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の糖尿病の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が1.99、全国女性が0.74であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
悪化している。		D

指標: 8-① HbA1c(NGSP値)6.5以上8.4未満の者の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,764	4,410
割合	0.7%	0.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.123
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して1.2ポイント(減少率は15.2%)減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の糖尿病の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が4.75、全国男性が2.77であり、全国と比べるとかなり高い状況。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 8-② HbA1c(NGSP値)8.4以上の者の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,060	6,746
割合	0.2%	0.2%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.500
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値に対して直近実績値の変化なし。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の糖尿病の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が1.99、全国女性が0.74であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 9-① 糖尿病治療継続者の割合の増加(男性20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,764	4,410
割合	0.3%	0.2%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.185
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値は、ベースライン値に対して0.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- -		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		
		C

指標: 9-② 糖尿病治療継続者の割合の増加(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,060	6,746
割合	0.1%	0.1%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.500
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- ベースライン値に対して直近実績値の変化なし。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- -		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(有意差なし)。		
		C

指標: 10-① γ GTP51U/I以上の割合(男性: 20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,759	4,410
割合	27.7%	27.2%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.307
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.5ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が21.14、全国男性が9.01であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県13.5、全国6.7と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 10-② γ GTP51U/I以上の割合(女性: 20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,060	6,747
割合	4.5%	4.1%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.133
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.4ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.22、全国女性が2.36であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県2.1、全国0.9と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 11-① AST(GOT)31u/l以上の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,764	4,410
割合	19.2%	19.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.366
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.3ポイント増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が21.14、全国男性が9.01であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県13.5、全国6.7と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 11-② AST(GOT)31u/l以上の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,061	6,747
割合	4.1%	3.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.122
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.4ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.22、全国女性が2.36であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県2.1、全国0.9と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 12-① AST(GOT)31u/l以上の割合(男性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	3,764	4,410
割合	36.4%	36.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.463
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値に対して0.1ポイント減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県男性が21.14、全国男性が9.01であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県13.5、全国6.7と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標: 12-② AST(GOT)31u/l以上の割合(女性:20~39歳)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	国保連合会特定健診データ(40歳未満)	国保連合会特定健診データ(40歳未満)
調査人数	6,061	6,747
割合	6.3%	6.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.500
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値に対する直近値の変化なし。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
直近値を集計した際、同じ手法でベースライン値も再集計を行った。		
(3)その他データ分析に係るコメント ・平成27年の肝疾患の年齢調整死亡率(20~64歳)は、沖縄県女性が5.22、全国女性が2.36であり、全国と比べて2倍以上も高い状況。 ・平成27年のアルコール性肝疾患による死亡率は、沖縄県2.1、全国0.9と全国に比べて2倍高い状況である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(有意差なし)。		C

指標:1 ロコモティブシンドロームの認知度の向上

目標値: 増加

(後期目標:80%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	—	1,745
割合	—	14.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	—	—
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
なし。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
○15歳以上が回答。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○性別、年齢階級別にみると、男性より女性のほうが高く、60歳以上の認知度が高い傾向。 男性15-19歳0.0%、20歳代2.5%、30歳代7.8%、40歳代8.9%、50歳代11.8%、 60歳代15.2%、70歳以上18.2%、計10.9% 女性15-19歳7.5%、20歳代10.8%、30歳代10.7%、40歳代15.8%、50歳代18.8%、 60歳代26.6%、70歳以上19.8%、計17.6%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
評価困難。		E

指標:2 低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合の増加の抑制

目標値: 10.1%

(後期目標:12.4%)

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成26年度
調査名	特定健診・保健指導の実施状況に関するデータ 後期高齢者健診データ	NDBオープンデータ 後期高齢者健診データ
調査人数	76281	93447
割合	7.8%	8.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	—	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し1.0ポイント増加した。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
特定健診における65~74歳のデータソースが、ベースライン値と直近実績値とで異なるが、ベースラインのデータソースにレセプト情報が追加されたものになるので、類似のデータとして取り扱うこととした。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
低栄養傾向の高齢者の割合の増加の抑制が目標項目だが、目標値は低栄養傾向の高齢者の割合で判定している。前期高齢者と後期高齢者と分けてみた場合、前期高齢者は8.1%、後期高齢者は10.0%と後期高齢者で高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
目標値の10.1%よりも低い割合で抑えることができた。 ベースラインの7.8%と比較しても、直近実績値の8.8%は有意差はない。		E-a

指標:3 シルバー人材センター会員数

目標値: 増加

(後期目標:増加)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成24年度	平成28年度
調査名	連合実績	連合実績
人数	5,573	5,755
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し182人増加した。 ※片側検定は無し。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○H27年度の会員数:5,842人		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 前期目標を達成している。		
		A

指標:4 食生活改善推進員が実施する各種教室等の開催数(高齢者の健康に関すること)

目標値: 増加

(後期目標:増加)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	健康増進課調べ	健康長寿課調べ
回数	520	45
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より475回減少した。 ※片側検定は無し。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 平成28年度において、平成23年度よりも食生活改善推進員の数及び協議会の数が減少しているため、実績が下がった可能性がある。 成人を対象とした教室等が大幅に増加したため、高齢者の健康に関する各種教室の開催数が減ったとも考えられる。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 片側検定は実施していないが、実数としてベースライン値から大幅に減少しているため、悪化傾向にある。		
		D

指標: 1 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合
目標値: 増加 (後期目標: 増加)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	-	1745
割合	-	41.3%
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
なし。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
○15歳以上が回答。 ○平成28年度から調査を開始した項目。		
(3)その他データ分析に係るコメント ○男女別にみると、男性38.6%、女性43.7%となっている。 ○平成27年国民健康栄養調査では、男性47.6%、女性52.7%、総計50.3%となっており、沖縄県は全国より低い値となっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
評価困難。 (ベースライン値のない指標)		E

指標: 2 20-60歳代男性の肥満者の割合
目標値: 減少 (後期目標: 25%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	391	479
割合	46.3%	39.9%
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	0.029
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より6.4ポイント減少し、有意な差がみられた(片側P値=0.029)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
○肥満者の割合(20~60歳代)は有意に減少したが、後期目標値を達成するには14.9ポイントの減少が必要である。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○年齢階級別にみると、20歳代23.7%、30歳代39.1%、40歳代47.1%、50歳代50.0%、60歳代33.9%である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
改善した。 前期目標が「減少」なので、目標も達成している。		A

指標:3 40-60歳代女性の肥満者の割合

目標値: 減少

(後期目標:25%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	285	373
割合	37.5%	29.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.019
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より7.7ポイント減少し、有意な差がみられた(片側P値=0.019)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ○肥満者の割合(40~60歳代)は有意に減少し、後期目標値を達成するには4.8ポイントの減少が必要である。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○年齢階級別にみると、40歳代28.3%、50歳代33.0%、60歳代28.5%である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 改善した。 前期目標が「減少」なので、目標も達成している。		
		A

指標:4 20歳代女性のやせの割合

目標値: 減少

(後期目標:減少)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	39	60
割合	17.9%	18.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.480
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より0.4ポイント増加しているが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.480)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標:5 脂肪エネルギー比率の減少(20-40歳代の男女)

目標値: 減少 (後期目標:20~25%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	335	294
平均値	27.6	29.5
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.001
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より1.9ポイント増加し、有意な差がみられた(片側P値=0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ○日本人の食事摂取基準(2015年版)が策定され、脂肪エネルギー比率の目標量が20~30%と設定された。(2010年版では20~25%)そのため、後期目標を20~30%に変更する必要がある。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○男性より女性で高くなっている(男性28.6%、女性30.4%)。 ○年齢階級別にみると、男女とも20歳代が最も高く、食事摂取基準の目標量を超えている。 (若い世代ほど標本数が少ないため、標準誤差も大きくなっている。) ○性別・年齢階級別の実績値は、男性において20歳代30.8%、30歳代28.4%、40歳代27.6%、女性において20歳代34.5%、30歳代28.1%、40歳代29.9%である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 脂肪エネルギー比は有意に増加し、悪化傾向にある。		
		D

指標:6 食塩摂取量の減少(成人男性)

目標値: 減少 (後期目標:9g未満)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	438	326
平均値	9.3	8.8
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.026
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より0.5g減少し、有意な差がみられた(片側P値=0.026)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ○日本人の食事摂取基準(2015年版)が策定され、食塩摂取量の目標量が8g未満と設定された。(2010年版では9g未満)そのため、後期目標を8g未満に修正する必要がある。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○後期目標(9g未満)も達成した。 ○年齢階級別にみると、20歳代8.1g、30歳代8.9g、40歳代8.3g、50歳代8.7g、60歳代10.0g、70歳以上8.4gである。 ○60歳代で最も高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 改善した。 前期目標が「減少」なので、目標も達成した。		
		A

指標:7 食塩摂取量の減少(成人女性)

目標値: 減少

(後期目標:7.5g未満)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	449	377
平均値	7.7	7.5
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.165
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より0.2g減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.165)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
○日本人の食事摂取基準(2015年版)が策定され、食塩摂取量の目標量が7g未満と設定された。(2010年版では7.5g未満)そのため、後期目標を7g未満に修正する必要がある。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○年齢階級別にみると、20歳代7.4g、30歳代7.3g、40歳代7.4g、50歳代7.3g、60歳代8.5g、70歳以上7.2gである。 ○60歳代で最も高くなっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標:8 野菜摂取量の増加(成人)

目標値: 増加

(後期目標:350g以上)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	887	703
平均値	282.6	272.2
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.117
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より10.4g減少しているが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.117)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○性別・年齢階級別の実績値は、男性において20歳代223.4g、30歳代270.5g、40歳代245.3g、50歳代292.9g、60歳代289.3g、70歳以上307.0g、女性において20歳代244.1g、30歳代210.6g、40歳代245.6g、50歳代250.9g、60歳代281.2g、70歳以上339.3gである。 ○男性では20歳代、女性では30歳代が最も低い。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標:9 果物摂取量の増加(成人)

目標値: 増加

(後期目標:130g)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	887	703
平均値	63.2	76.3
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.007
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値より13.1g増加し、有意な差がみられた(片側P値=0.007)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ○果物摂取量の平均値(20歳以上)は有意に増加したが、後期目標を達成するには53.7gの増加が必要である。		
(3)その他データ分析に係るコメント ○男性より女性の摂取量が多い(男性59.9g、女性90.4g)。 ○性別・年齢階級別の実績値は、男性において20歳代18.0g、30歳代34.9g、40歳代37.7g、50歳代51.7g、60歳代88.3g、70歳以上95.7g、女性において20歳代54.7g、30歳代52.1g、40歳代64.7g、50歳代73.3g、60歳代128.6g、70歳以上130.6gである。 ○男性では20歳代、女性では30歳代が最も低い。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 改善した。 前期目標の「増加」は達成したが、後期目標の「130g」までは現状値の約1.7倍増が必要。		
		A

指標:10 果物摂取量100g未満の者の割合(成人)

目標値: 減少

(後期目標:減少)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	-	703
割合	-	69.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- なし。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ○ベースライン値が設定されていないため、評価できない。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 評価困難。 (ベースライン値のない指標)		
		E

指標:11 朝食を欠食する人の減少(20歳代男性)

目標値: 減少

(後期目標:20%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	45	32
割合	31.1%	31.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.493
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値がベースライン値より0.2ポイント増加しているが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.493)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○後期目標値は20.0%であり、目標達成には11.3ポイントの減少が必要である。 ○朝食を食べない理由として、朝食を食べるよりも寝ていたい(36.2%)、時間がない(27.7%)、食欲がわかない(23.4%)が大半を占めている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標:12 朝食を欠食する人の減少(30歳代男性)

目標値: 減少

(後期目標:20%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	60	44
割合	35.0%	31.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.366
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値がベースライン値より3.2ポイント減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.366)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○後期目標値は20.0%であり、目標達成には11.8ポイントの減少が必要である。 ○朝食を食べない理由として、時間がない(37.5%)、食欲がわかない(25%)、朝食を食べるよりも寝ていたい(20.3%)が大半を占めている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標:13 栄養情報提供店登録数の増加

目標値: 110 店舗 (後期目標:150店舗)

	ベースライン時	中間評価時
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	保健所報告	保健所報告
人数	67	100
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値は、ベースライン値より33店舗増加した。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
○飲食店は廃業等もあり、年度によって登録数が減少することもある。(平成27年度から現況調査を実施している。)		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○健康おきなわ21(第2次)のモニタリング指標として毎年把握している。 (平成25年度119店舗、平成26年度118店舗、平成27年度127店舗)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
改善傾向にあるが、前期目標には達しなかった。		B

**指標:14 食生活改善推進員が実施する各種教室等の開催数
(肥満及び生活習慣病予防に関すること)**

目標値: 増加 (後期目標:増加)

	ベースライン時	中間評価時
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	健康長寿課調べ	健康長寿課調べ
回数	361	1,575
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より1,214回増加した。 ※片側検定は無し。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
改善した。 片側検定は実施していないが、実数としてベースライン値から大幅に増加した。		A

指標:1 日常生活における歩数の増加(20歳以上男性)

目標値: 増加 (後期目標:9,000歩)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	489	511
平均値	6906	6261
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.009
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より645歩減少し、有意な差がみられた(片側P値=0.009)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント 【県民健康・栄養調査の結果】 平成18年度:7,572歩(人数360人、標準偏差4,368、標準誤差230.2138137) ○H28年度調査結果を年齢階級別にみると、20歳代6,216歩、30歳代7,069歩、40歳代6,703歩、50歳代6,237歩、60歳代6,669歩、70歳以上4,724歩である。 (平成23年度調査では、20歳代6,158歩、30歳代8,561歩、40歳代7,845歩、50歳代7,578歩、60歳代6,868歩、70歳代4,592歩であった。)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 悪化している。		
		D

指標:2 日常生活における歩数の増加(20歳以上女性)

目標値: 増加 (後期目標:8,500歩)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	535	581
平均値	5934	5901
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.441
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より33歩減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.441)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント 【県民健康・栄養調査の結果】 平成18年度:7,041歩(人数416人、標準偏差4,008、標準誤差196.5083674) ○H28年度調査結果を年齢階級別にみると、20歳代6,144歩、30歳代6,420歩、40歳代6,143歩、50歳代6,948歩、60歳代6,948歩、70歳以上5,761歩である。 (平成23年度調査では、20歳代6,254歩、30歳代6,149歩、40歳代6,962歩、50歳代7,077歩、60歳代5,891歩、70歳以上3,559歩であった。)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 変わらない。		
		C

指標:3 日常生活における歩数の増加(20-64歳の男性)

目標値: 増加 (後期目標:9,000歩)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	335	351
平均値	7503	6640
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.005
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より863歩減少し、有意な差がみられた(片側P値=0.005)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
悪化している。		D

指標:4 日常生活における歩数の増加(20-64歳の女性)

目標値: 増加 (後期目標:8,500歩)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	390	396
平均値	6581	6366
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.212
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より215歩減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.212)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標:5 日常生活における歩数の増加(65歳以上の男性)

目標値: 増加 (後期目標:7,000歩)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	134	160
平均値	5324	5430
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.407
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より106歩増加したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.407)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○日常生活における歩数の増加(65歳以上の男性)は有意ではないが増加していたものの、後期目標を達成するには1,570歩の増加が必要である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標:6 日常生活における歩数の増加(65歳以上の女性)

目標値: 増加 (後期目標:6,000歩)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	145	185
平均値	4195	4905
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.022
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より710歩増加し、有意な差がみられた(片側P値=0.022)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○日常生活における歩数(65歳以上の女性)は有意に増加したが、後期目標を達成するには1,095歩の増加が必要である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
改善した。 前期目標を達成した。		A

指標:7 運動習慣者の割合の増加(20歳以上の男性)

目標値: 49% (後期目標:54%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	354	279
割合	43.8%	45.2%
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値はベースライン値より1.4ポイント増加したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.362)。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>○平成23年度と平成28年度では、調査票の質問形式が異なる。 (運動習慣有りと判断する条件は、週2日以上、1回30分以上、1年以上継続している者で同一である。)</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>○年齢階級別では、20歳代23.1%、30歳代35.5%、40歳代32.7%、50歳代36.0%、60歳代 53.3%、70歳以上56.3%で、20歳代が最も低い。 (平成23年度調査では、20歳代45.8%、30歳代36.2%、40歳代21.1%、50歳代38.1%、60歳代51.7%、70歳以上52.7%であった。)</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>変わらない。 前期目標に達していない。</p>		
		C

指標:8 運動習慣者の割合の増加(20歳以上の女性)

目標値: 39% (後期目標:44%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	432	381
割合	34.0%	32.5%
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <p>直近実績値はベースライン値より1.5ポイント減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.325)</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <p>○平成23年度と平成28年度では、調査票の質問形式が異なる。 (運動習慣有りと判断する条件は、週2日以上、1回30分以上、1年以上継続している者で同一である。)</p>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <p>○年齢階級別では、20歳代14.3%、30歳代19.0%、40歳代21.3%、50歳代23.5%、60歳代41.3%、70歳以上47.3%で、20歳代が最も低い。 (平成23年度調査では、20歳代25.0%、30歳代10.3%、40歳代25.0%、50歳代35.4%、60歳代49.4%、70歳以上42.1%であった。)</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <p>変わらない。 前期目標に達していない。</p>		
		C

指標:9 運動習慣者の割合の増加(20-64歳の男性)

目標値: 42% (後期目標:47%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	221	159
割合	36.7%	35.8%
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より0.9ポイント減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.429)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ○平成23年度と平成28年度では、調査票の質問形式が異なる。 (運動習慣有りと判断する条件は、週2日以上、1回30分以上、1年以上継続している者で同一である。)		
(3)その他データ分析に係るコメント なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 変わらない。 前期目標に達していない。		C

指標:10 運動習慣者の割合の増加(20-64歳の女性)

目標値: 32% (後期目標:37%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	281	225
割合	27.0%	24.0%
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より3.0ポイント減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.220)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ○平成23年度と平成28年度では、調査票の質問形式が異なる。 (運動習慣有りと判断する条件は、週2日以上、1回30分以上、1年以上継続している者で同一である。)		
(3)その他データ分析に係るコメント なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 変わらない。 前期目標に達していない。		C

指標: 11 運動習慣者の割合の増加(65歳以上の男性)

目標値: 61% (後期目標: 66%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	133	120
割合	55.6%	57.5%
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より1.9ポイント増加したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.380)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ○平成23年度と平成28年度では、調査票の質問形式が異なる。 (運動習慣有りと判断する条件は、週2日以上、1回30分以上、1年以上継続している者で同一である。)		
(3)その他データ分析に係るコメント なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 変わらない。 前期目標に達していない。		C

指標: 12 運動習慣者の割合の増加(65歳以上の女性)

目標値: 52% (後期目標: 57%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	151	156
割合	47.0%	44.9%
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値より2.1ポイント減少したが、有意な差は見られなかった(片側P値=0.356)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ○平成23年度と平成28年度では、調査票の質問形式が異なる。 (運動習慣有りと判断する条件は、週2日以上、1回30分以上、1年以上継続している者で同一である。)		
(3)その他データ分析に係るコメント なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 変わらない。 前期目標に達していない。		C

指標:13 総合型地域スポーツクラブの設置率の増加

目標値: 80%

(後期目標:100%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	沖縄県スポーツ推進計画	沖縄県スポーツ推進計画
調査人数	41	41
割合	63.4%	65.9%
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値より2.5ポイント増加したが、有意な差はみられなかった(片側P値=0.406)。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○41市町村のうち27市町村が創設済みであり、クラブ数は49クラブとなっている。 (創設準備中の市町村も含めると34市町村となり、クラブ数は63クラブ。)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標: 1-① 休養不足の低減／休養の「不足」と「不足がち」の人の割合を減らす

目標値: 16.0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	1585	1743
割合	20.3%	21.7%
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	0.161
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値と中間評価の間に有意な変化はみられなかった。(片側P値=0.161)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
休養が「不足」、「不足がち」と答えた人の割合は、男性は20歳未満、30～40歳代の割合減により減少したが、女性は50歳代以外の年齢で増加しており、全体で1.4%増加した。 男性 H28 20.3% (H23 20.7%) 女性 H28 23.0% (H23 19.9%)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標: 1-② 休養の「不足」「不足がち」の人の割合を減らす(男性)

目標値: 16.0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	760	826
割合	20.7%	20.3%
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	0.422
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値と中間評価の間に有意な変化はみられなかった(片側P値=0.422)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
休養が「不足」、「不足がち」と答えた15歳以上男性の割合は、20歳未満、30～40歳代の割合減によりわずかに減少した。特に、H23年時に40歳代41.2%の割合が、31.5%に減少した。 男性 H28 20.3% (H23 20.7%)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標: 1-③ 休養の「不足」「不足がち」の人の割合を減らす(女性)

目標値: 16.0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	825	917
割合	19.9%	23.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.057
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に対し3.1ポイント増加したが、有意な変化はみられなかった(片側P値=0.057)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
休養が「不足」、「不足がち」と答えた15歳以上女性の割合は、50歳代以外の年齢で増加しており、また、30~40代で3割を超え、H23年時より2.3%増加した。 女性 H28 23.0% (H23 19.9%)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
有意差はないが、女性は男性に比べ悪化している。		C

指標: 2-① 睡眠時間の確保/「平均睡眠時間が6時間未満」の者の割合を減らす

目標値: 22.5%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	1583	1743
割合	36.7%	41.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.003
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に対し4.7ポイント増加し、割合は有意に増加した。(片側P値=0.003)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
「平均睡眠時間が6時間未満」と答えた人の割合は、男性38.7%、女性43.9%と増加している。 男性では30~50代で4割を超えて高く、女性は20歳代、70歳代以上以外の年代で4割を超え、50歳代は5.6割が平均睡眠時間6時間未満となっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
悪化している。		D

指標: 2-② 「平均睡眠時間が6時間未満」の者の割合を減らす(男性)

目標値: 22.5%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	759	825
割合	33.7%	38.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.019
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に対し5.0ポイント増加し、割合は有意に増加した。(片側P値=0.019)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 「平均睡眠時間が6時間未満」と答えた15歳以上男性の割合は、38.7%で増加している。 30~50歳代で4割を超えて高いが、20歳未満・20歳代はわずかに減少している。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 悪化している。		
		D

指標: 2-③ 「平均睡眠時間が6時間未満」の者の割合を減らす(女性)

目標値: 22.5%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	824	918
割合	39.4%	43.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.028
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に対し4.5ポイント増加し、割合は有意に増加した。(片側P値=0.028)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 「平均睡眠時間が6時間未満」と答えた15歳以上女性の割合は、43.9%と増加している。 20歳代、70歳代以上以外の年代で4割を超え、50歳代は5.6割が平均睡眠時間6時間未満となっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 悪化している。		
		D

指標:3 休養睡眠の確保／睡眠による休養が不足しているの者の割合を減らす
目標値: 14.4%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	1585	1744
割合	17.7%	20.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.014
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に対し3.0ポイント増加し、割合は有意に増加した。(片側P値=0.014)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 「睡眠による休養が不足している」と答えた人の割合は、男性18.9%、女性22.3%と増加している。 男性では、H23年に37.1%だった40代の割合が21.2%に減少したが、60歳代で13.9%(H23 10.2)、70歳代以上13.7 (H23 6.9%)と、割合が高くなった。女性は30歳代以外の年代で割合が高くなっている。 男性 H28 18.9% (H23 18.6%) 女性 H28 22.3% (H23 17.0%)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 悪化している。		
		D

指標:4 週労働時間60時間の被雇用者の減少
週間就業時間60時間以上の被雇用者の割合の減少
目標値: 5.1%

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H22年労働力調査年報	H28年労働力調査年報 週間就業時間別非農林就業者数
調査人数	576000	634000
割合	7.3%	5.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 有意に減少した(片側P値<0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 週間就業時間60時間以上の被雇用者の割合は、男女ともに減少しています。 男性 H28 9.0% (H23 10.2%) 女性 H28 2.1% (H23 3.5%)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 目標に達していないが、改善傾向にある。		
		B

指標: 1 気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者の割合の減少

目標値: 8.0%

年次	ベースライン時 平成22年度	中間評価時 平成25年度
調査名	H22年 国民生活基礎調査(健康票)	H25年 国民生活基礎調査(健康票)
調査人数(千人)	787	992
割合	8.5%	9.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.355
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値と中間評価の間に有意な変化はみられなかった(片側P値=0.355)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
平成25年国民生活基礎調査(健康票)によると、質問の合計点が10点以上の20歳以上割合は9.0%(全国10.5%)、20歳以上男性の割合は7.8%(9.7%)、20歳以上女性は10.1%(11.3%)と、全国より低い割合となっている。 [参考] H22 沖縄県20歳以上総数8.5%(全国10.4%)、男性7.7%(全国9.5%)、女性9.3%(11.3%)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標: 2-① 自殺死亡率

目標値: 19.2 自殺死亡率30%以上減少

年次	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成27年度
調査名	H24年 人口動態統計	H27年 人口動態統計
人口	1,410,000	1,429,000
死亡数	285	294
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値と中間評価の間に優位な変化はみられなかった。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
人口動態統計による沖縄県の自殺死亡率(人口10万人対)は、平成24年に20.3(285人 男性224 女性61)と全国値(21.0)より下回ったが、平成25年20.8(292人 男性 女性)、平成26年20.3(287人 男性214人 女性73人)、平成27年20.7(294人 男性224 女性70)と横ばい状態である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標: 2-② 自殺死亡率

目標値: 19.2 自殺死亡率30%以上減少

年次	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成27年度
調査名	H24年 人口動態統計	H27年 人口動態統計
死亡数	285	294
自殺死亡率(人口10万対)	20.3%	20.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.453
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- ベースライン値と中間評価の間に有意な変化はみられなかった(片側P値=0.453)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 人口動態統計による沖縄県の自殺死亡率(人口10万人対)は、平成24年に20.3(285人)と全国値(21.0)より下回ったが、平成25年20.8(292人)、平成26年20.3(287人)、平成27年20.7(294人)と横ばい状態である。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない		
		C

指標: 3 メンタルヘルスに関する措置を受けられる職場の割合の増加(メンタルヘルスクアに取り組んでいる事業所の割合の増加)

目標値: 85.5% (H29)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成27年度
調査名	H23年 沖縄県労働条件等実態調査報告書	H27年 沖縄県労働条件等実態調査報告書
調査人数(事業所数)	608	826
割合	49.4%	51.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.175
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に対し2.5ポイント増加したが、有意な変化はみられなかった(片側P値=0.175)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 沖縄県労働条件等実態調査報告書によるベースライン値設定時(H23)の割合の算出方法は、全事業所数から無回答数を差し引いた数字で割合を算出していたが、平成26年度以降は割合だけの表示(事業所数の回答内訳数記載なし:無回答の差引ができない)となっているため、ベースライン値との比較ができないため、参考として、データベースの割合を、回答無しも含めて比較してみる。 50.0% ⇒ 49.4%		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 沖縄県労働条件等実態調査報告書によるメンタルヘルス対策を実施している事業所の割合は、平成23年度49.4%、平成24年度44.0%、平成25年度42.6%、平成26年度41.3%、平成27年度51.9%で推移している。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。 目標と実績がかけ離れている		
		C

指標: 1-① 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少(男性)

目標値: 18%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	467	535
割合	25.1%	28.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.149
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に対し2.9ポイント増加したが、有意な変化はみられなかった(片側P値=0.149)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
ベースライン時の調査人員に未成年者が含まれていたため、未成年者を除いた人数で再計算を行い、平成23年時の数値を修正する。 23.3% ⇒ 25.1%		
(3)その他データ分析に係るコメント		
男性で生活習慣病のリスクを高める量(純アルコール量40g以上)を飲酒している者の割合は、20~30歳代、50歳代で低くなった。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標: 1-② 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少(女性)

目標値: 21%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	210	297
割合	27.1%	32.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.102
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に対し5.2ポイント増加したが、有意な変化はみられなかった(片側P値=0.102)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
ベースライン時の調査人員に未成年者が含まれていたため、未成年者を除いた人数で再計算を行い、平成23年時の数値を修正する。 27.2% ⇒ 27.1%		
(3)その他データ分析に係るコメント		
女性で生活習慣病のリスクを高める量(純アルコール量20g以上)を飲酒している者の割合は、20~40歳代、60歳代以上で高くなった。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。		C

指標: 2-① 未成年の飲酒をなくす(男性)

目標値: 0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	55	49
割合	3.6%	2.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.311
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- ベースライン値と中間評価の間に有意な変化はみられなかった(片側P値=0.311)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 未成年男性の飲酒している者の割合は、H23年時の2.5%(2人)から2.0%(1人)に減少した。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標: 2-② 未成年の飲酒をなくす(女性)

目標値: 0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	51	40
割合	2.0%	2.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.432
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- ベースライン値と中間評価の間に有意な変化はみられなかった(片側P値=0.432)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 未成年女性の飲酒している者の割合は、H23年時の2.0%(1人)から2.5%(1人)となっている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない。		
		C

指標:3 妊娠中の飲酒をなくす

目標値: 0.0% (H29) [参考] H25 2.9%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成27年度
調査名		H27年 厚生労働省母子保健課調査
調査人数		
割合		1.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
データ分析不可。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
厚生労働省母子保健課調査による妊娠中の妊婦の飲酒率 H25年度 2.9%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
ベースライン値が設定されていなかったため、参考値として全国の妊婦の飲酒率と比較し、改善傾向とした。		E-b

指標:4-① 節度ある適度な飲酒量(1日平均純アルコールで20g程度)を知っている者の割合(男性)

目標値: 100%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	757	825
割合	31.0%	36.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.008
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に対し5.7ポイント増加し、割合は有意に増加した。(片側P値=0.008)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
男性で、節度ある適度な飲酒量(男性で1日平均純アルコール量で20g程度)を知っている者の割合は、未成年、70歳代以外の年代で高くなった。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。(改善してはいるが、目標値との乖離があるため)		C

指標：4-② 節度ある適度な飲酒量(1日平均純アルコールで20g程度)を知っている者の割合(女性)

目標値： 100%

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	825	913
割合	22.9%	27.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.012
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に対し4.7ポイント増加し、割合は有意に増加した。(片側P値=0.012)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
女性で、節度ある適度な飲酒量(男性で1日平均純アルコール量で20g程度)を知っている者の割合は、40歳代以外の年代で高くなった。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない。(改善してはいるが、目標値との乖離があるため)		C

指標: 1 COPDの認知度の向上

目標値: 80% H28から調査開始

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数		1,739
割合		18.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値がないため分析不可。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
ベースライン値がないため分析不可。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
評価困難(新たに設定)		E

指標: 1-① COPDの認知度の向上(男性)

目標値: 80% H28から調査開始

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成23年度	平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数		823
割合		16.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
ベースライン値がないため分析不可。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
ベースライン値がないため分析不可。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
評価困難(新たに設定)		E

指標: 1-② COPDの認知度の向上(女性)

目標値: 80% H28から調査開始

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数		916
割合		20.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- ベースライン値がないため分析不可。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ベースライン値がないため分析不可。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- なし。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 評価困難(新たに設定)		
		E

指標: 2-① 成人の喫煙率の減少(男性)

目標値: 20%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	703	772
割合	30.6%	27.9%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.129
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し2.7ポイント減少したが、有意な変化はみられなかった。(片側P値=0.138)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○年代別でみると、20歳代の喫煙率が42.4%(H23)から32.9%(H28)に9.5ポイント減少した。40歳代の喫煙率が43.3%(H23)から34.7%(H28)に8.6ポイント減少した。 ○平成27年国民健康・栄養調査では、全国の喫煙率の状況は32.2%(H22)から30.1%(H27)に2.1ポイント減少した。沖縄県の減少幅(Δ2.7ポイント)が大きい。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(※改善したが有意でない)		
		C

指標:2-② 成人の喫煙率の減少(女性)

目標値: 5%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	772	877
割合	7.8%	9.2%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.154
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し1.4ポイント増加したが、有意な変化はみられなかった。(片側P値=0.154)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○年代別でみると、20歳代の喫煙率が4.2%(H23)から12.2%(H28)に8.0ポイント増加した。40歳代が9.4%(H23)から10.1%(H28)に0.7ポイント増加、70歳代が0.5%(H23)から4.7%(H28)に4.2ポイント増加した。 ○平成27年国民健康・栄養調査では、全国の喫煙率の状況は8.4%(H22)から7.9%(H27)に0.5ポイント減少に対して、沖縄県の増加(1.4ポイント)した。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(※悪化したが無意でない)		C

指標:3 妊娠中の喫煙をなくす

目標値: 0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年乳幼児健康診査報告書	H28年乳幼児健康診査報告書
調査人数	13,904	14,924
割合	4.6%	3.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し1.6ポイント減少し、有意に減少した。 (片側P値=0.000)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
小児保健協会のH28乳幼児健康診査報告書は南城市、南風原町は受託外のため含まない。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
なし		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
前期目標は達成していないが、有意に改善している。		B

指標: 4-① 両親の喫煙率(1歳6ヶ月)(父親)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H24年乳幼児健康診査報告書	H28年乳幼児健康診査報告書
調査人数	13,604	13,544
割合	42.3%	39.8%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し2.5ポイント減少し、有意に減少した。 (片側P値=0.000)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 小児保健協会のH28乳幼児健康診査報告書は南城市、南風原町は受託外のため含まない。		
(3)その他データ分析に係るコメント 年代別の内訳 □~19歳:51.9%(13人/27人) □20-29歳:50.0%(1,421人/2,843人) □30-39歳:38.7%(4,680人/7,635人) □40-49歳:33.2%(889人/2,676人) □50歳~:29.5%(71人/241人) □不明:29.5%(36人/122人)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 前期目標を達成し、有意に改善している。		
		A

指標: 4-② 両親の喫煙率(1歳6ヶ月)(母親)

目標値: 減少

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H24年乳幼児健康診査報告書	H28年乳幼児健康診査報告書
調査人数	14,176	14,159
割合	7.9%	6.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し1.3ポイント減少し、有意に減少した。 (片側P値=0.000)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 小児保健協会のH28乳幼児健康診査報告書は南城市、南風原町は受託外のため含まない。		
(3)その他データ分析に係るコメント 年代別の内訳 □~19歳:9.9%(9人/91人) □20-29歳:12.1%(461人/3,822人) □30-39歳:4.5%(387人/8,563人) □40-49歳:4.2%(67人/1,577人) □50歳~:0.0%(0人/12人) □不明:9.6%(9人/94人)		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 前期目標を達成し、有意に改善している。		
		A

指標:5-① 未成年の喫煙をなくす(男性)

目標値: 0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	55	49
割合	1.8%	0.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.157
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し1.8ポイント減少したが、有意な変化はみられなかった。(片側P値=0.157)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
○県民健康・栄養調査のデータソースは、15-19歳となっており、15歳以下のデータがない。また、調査人数が少ないため変動が大きい。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○健康日本21(第2次)の現状値(H22)は、中学1年生男子 1.6%、高校3年生男子 8.6%。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(※目標を達成しているが、有意でない)		C

指標:5-② 未成年の喫煙をなくす(女性)

目標値: 0%

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	50	40
割合	2.0%	0.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.156
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し2.0ポイント減少したが、有意な変化はみられなかった。(片側P値=0.156)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
○県民健康・栄養調査のデータソースは、15-19歳となっており、15歳以下のデータがない。また、調査人数が少ないため変動が大きい。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
○健康日本21(第2次)の現状値(H22)は、中学1年生女子 0.9%、高校3年生女子 3.8%。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
変わらない(※目標を達成しているが、有意でない)		C

指標:6 喫煙(や受動喫煙)の健康影響に関する知識を持つ人の割合

目標値: 増加

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	11,052	12,161
割合	67.9%	69.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.036
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し1.1ポイント増加し、有意に増加した。(片側P値=0.036)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
<p>○調査人数は、7つの病気別の設問の回答者を合計した延べ人数</p> <p>○H23の評価指標の67.5%は無回答の者も母数に含めていたため、無回答の者を除いて67.9%へ訂正し、指標として扱っている</p> <p>○年代別で見ると、男性の20歳代が65.5%(H23)から76.1%(H28)に10.6ポイント増加、50歳代が68.6%(H23)から73.0%(H28)に4.4ポイント増加した。女性は、15-19歳が67.1%(H23)から71.1%(H28)に4.0ポイント増加、30歳代が72.0%(H23)から74.9%(H28)に2.9ポイント増加、40歳代が74.4%(H23)から80.1%(H28)に5.7ポイント増加した。</p> <p>○全国との比較について、国民・健康栄養調査においてH21以降調査は行われていない。</p>		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
前期目標を達成した。		A

指標:7-① 喫煙者のうち禁煙しようと思う者の割合(男性)

目標値: 増加

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	215	216
割合	74.4%	61.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.002
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し12.8ポイント減少し、有意に減少した。(片側P値=0.002)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
<p>○年代別で見ると、男性が60歳代を除く全ての年代で減少した。特に20歳代の85.7%(H23)から55.1%(H28)に30.6ポイント減少、50歳代の81.6%(H23)から63.4%(H28)に18.2ポイント減少、70歳以上の77.8%(H23)から42.9%(H28)に34.9ポイント減少で減少幅が大きい。</p> <p>○過去4期連続(H10、H15、H18、H23)で割合は増加していた。</p>		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
悪化した		D

指標: 7-② 喫煙者のうち禁煙しようと思う者の割合(女性)

目標値: 増加

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	60	80
割合	81.7%	75.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.168
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し6.7ポイント減少したが、有意な変化はみられなかった。(片側P値=0.168)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- なし。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○年代別でみると、女性は40歳代を除く全ての年代で減少した。特に30歳代の82.4%(H23)から63.2%(H28)に18.4ポイント減少で減少幅が大きい。 ○過去4期連続(H10、H15、H18、H23)で割合は増加していた。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 変わらない(※悪化したが無意でない)		
		C

指標: 8 禁煙外来(診療)受診者数

目標値: 増加

年次	ベースライン時 H23年	中間評価時 H27年
調査名	健康増進課調べ	健康増進課調べ
人数	5,276	4,911
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し365人減少した。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 特になし		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- ○初回受診者のみの値(禁煙に成功せず再度受診者は含まれていない) ○34歳以下の禁煙外来の要件緩和はH28の診療報酬改定から。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 悪化している		
		D

指標:9 禁煙施設認定推進制度の施設数の増加

目標値: 増加

年次	ベースライン時 H25.3月末現在	中間評価時 H29.3月末現在
調査名	沖縄県禁煙施設認定推進制度	沖縄県禁煙施設認定推進制度
施設数	938	1,598
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し660施設増加した		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 特になし		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 参考:【沖縄県禁煙施設認定推進制度(健康増進課調べ)】 ○認定数は、[H25.3]938施設→[H29.3]1,598施設(70%増)となっており、施設種別では、学校等が[H25.3]353施設→[H29.3]735施設(108%増)、医療機関が[H25.3]246施設→[H29.3]300施設(22%増)、その他[H25.3]149施設→[H29.3]264施設(77%増)の順で認定数が多い。 他は、飲食店[H25.3]93施設→[H29.3]171施設(83%増)、官公庁[H25.3]87施設→[H29.3]110施設(26%増)、宿泊施設[H25.3]10施設→[H29.3]18施設(80%増)。 ○区分別では、敷地内禁煙施設:[H25.3]487施設→[H29.3]936施設(92%増)、敷地内禁煙施設:[H25.3]450施設→[H29.3]662施設(47%増)となっている。 ○制度当初に設定していた分煙施設については、H24.4.1から区分を廃止し、敷地内及び施設内への変更、または変更できない場合は取り消しとしている。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 前期目標を達成している。		
		A

指標:10 禁煙外来(診療)実施医療機関数の増加

目標値: 増加

年次	ベースライン時 H23年	中間評価時 H28年
調査名	九州厚生局調べ	九州厚生局調べ
医療機関数	147	173
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し26機関増加した。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 特になし		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- -----		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- 前期目標を達成している。		
		A

指標: 1 3歳児むし歯有病者率の減少

目標値: 25%

(後期目標: 20%)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成24年度	平成27年度
調査名	乳幼児健康診査報告書(小保)	乳幼児健康診査報告書(小保) 及び健康長寿課調べ
調査人数	14,168	14,703
割合	33.2%	30.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、2.5ポイント減少し、有意な差が見られた。(片側P値=0.000<0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 平成27年度全国の3歳児むし歯有病者率は17.0%で、沖縄県の約6割。沖縄県は全国最下位。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- ・改善している(有意差あり) ・中間目標値25%に達していない		
		B

指標: 2 仕上げみがきを毎日している幼児の割合の増加(1.6歳児)

目標値: 75%

(後期目標: 80%)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成24年度	平成27年度
調査名	乳幼児健康診査報告書(小保)	乳幼児健康診査報告書(小保)
調査人数	14,433	14,101
割合	64.6%	68.4%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、3.8ポイント増加し、有意な差が見られた。(片側P値=0.000<0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ベースライン値はデータ把握が出来ない1市を除いた値。 直近値は同理由による2市町を除いた直近値。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 参考値: ①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳:35-44歳):50.3% ② " (50歳:45歳-54歳):47.8%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- ・改善している(有意差あり) ・中間目標値75%に達していない		
		B

指標:3 食事やおやつ時間が決まっている幼児の割合の増加(1.6歳児)

目標値: 85% (後期目標:90%)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成24年度	平成27年度
調査名	乳幼児健康診査報告書(小保)	乳幼児健康診査報告書(小保)
調査人数	14,370	14,132
割合	82.3%	82.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.187
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、0.4ポイント増加したが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.187>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ベースライン値はデータ把握が出来ない1市を除いた値。 直近値は同理由による2市町を除いた直近値。		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- ・変わらない(改善傾向ではあるが、有意差はない) ・中間目標値85%に達していない		
		C

指標:4 12歳児における1人平均むし歯数の減少

目標値: 1.5本 (後期目標:1本未満)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成24年度	平成28年度
調査名	学校保健統計調査報告書(文科省)	学校保健統計調査報告書(文科省)
調査人数		
平均値	2.5本	1.9本
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、0.6本減少していた。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 学校保健統計報告書(文部科学省)は抽出校のデータで、調査人数は公表されていない。調査人数と標準偏差が算出できず、有意差検定ができない。		
①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳:35-44歳):50.3% ----- 全学校を集計した学校保健統計報告書(沖縄県教育委員会)では、1.85本。(参考値) 標準偏差が算出できず、有意差検定が出来ない。 平成28年度全国の12歳児一人平均むし歯数は0.84本。沖縄県は全国最下位。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- ・改善傾向である(有意差検定できず) ・中間目標値1.5本に達していない		
		B

指標:5-① 歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少(40歳代:40-49歳)

目標値: 30% (後期目標:25%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	86	111
割合	31.4%	33.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.389
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し、1.9ポイント増加していたが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.389>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ベースライン同様、対象歯がない者は調査人数から除いて、4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合を算出した。		
(3)その他データ分析に係るコメント 平成28年歯科疾患実態調査(全国)では、40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合は44.7% 県民健康栄養調査の口腔内状況調査を用いているが、今後、口腔内診査協力者が減少すると年齢階級別の口腔内状況把握が困難になることが懸念され、別の方法も補完的に検討する必要がある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・変わらない(悪化傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値30%に達していない		
		C

指標:5-② 歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少(50歳代:50-59歳)

目標値: 35% (後期目標:30%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	125	66
割合	45.6%	50.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.281
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し、4.4ポイント増加していたが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.281>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ベースライン同様、対象歯がない者は調査人数から除いて、4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合を算出した。		
(3)その他データ分析に係るコメント 参考値: ①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳:35-44歳):50.3% ② " (50歳:45歳-54歳):47.8%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・変わらない(悪化傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値35%に達していない		
		C

指標:5-③ 歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少(60歳代:60-69歳)

目標値: 40% (後期目標:35%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	151	133
割合	44.6%	46.6%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.368
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し、2.0ポイント増加していたが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.368>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ベースライン同様、対象歯がない者は調査人数から除いて、4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合を算出した。		
(3)その他データ分析に係るコメント 平成28年歯科疾患実態調査(全国)では、60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合は59.4% 県民健康栄養調査の口腔内状況調査を用いているが、今後、口腔内診査協力者が減少すると年齢階級別の口腔内状況把握が困難になることが懸念され、別の方法も補完的に検討する必要がある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・変わらない(悪化傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値40%に達していない		
		C

指標:6-① 歯間部清掃器具を毎日使用する者の割合の増加(40歳:35-44歳)

目標値: 30% (後期目標:50%)

	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
年次		
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	221	304
割合	14.5%	15.5%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.377
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し、1.0ポイント増加したが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.377>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
(3)その他データ分析に係るコメント 参考値: ①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳:35-44歳):50.3% ② "(50歳:45歳-54歳):47.8%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・変わらない(改善傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値30%に達していない		
		C

指標: 6-② 歯間部清掃器具を毎日使用する者の割合の増加(50歳: 45-54歳)

目標値: 30% (後期目標: 50%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	225	278
割合	19.1%	20.1%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.385
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、1.0ポイント増加したが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.385>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- ・変わらない(改善傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値30%に達していない		
		C

指標: 7 歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(60歳: 55-64歳)

目標値: 40% (後期目標: 50%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	318	278
割合	15.7%	54.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、39.0ポイント増加し、有意な差が見られた。(片側P値=0.000<0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- ※H23と同じ設問項目ではない H23:「問22 この1年間に歯科健診や治療を受けたことがありますか」で、 1. ある (と答え) 「問22-1 あなたが受けた内容は何か」で、 「2. 定期的な歯石除去や清掃などの健康管理」と答えた者 50人 H28:問30「あなたはこの1年間に歯の健康づくりのために歯科健康診査や専門家による口腔ケア(歯面の清掃、歯石の除去、入れ歯の調整など)をどのくらいの頻度で受けましたか」で 「1.半年に1回以上」と答えた64人「2.1年に1回程度」と答えた88人の合計 152人		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 参考値: ①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳: 35-44歳): 50.3% ② " (50歳: 45歳-54歳): 47.8%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ----- ・改善している(有意差あり) ・中間目標値40%に達している (前期及び後期目標値を達成している)		
		A

指標:8 60歳で24歯以上の歯を有する者の割合の増加(60歳:55-64歳)

目標値: 50% (後期目標:60%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	160	96
割合	33.1%	53.1%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.001
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、20.0ポイント増加し、有意な差がみられた。(片側P値=0.001)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ----- 直近実績値の調査人数がベースライン時の6割		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 平成28年歯科疾患実態調査(概要)では、全国で6024を達成した人の割合は74.4% 県民健康栄養調査の口腔内状況調査を用いているが、今後、口腔内診査協力者が減少すると年齢階級別の口腔内 状況把握が困難になることが懸念され、別の方法も補完的に検討する必要がある。		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・改善している(有意差あり) ・中間目標値50%に達している(片側P値=0.271>0.05) (前期目標値を達成しているが、有意な差なし)		A

指標:9 80歳で20歯以上の歯を有する者の割合の増加(80歳:75-84歳)

目標値: 20% (後期目標:30%)

年次	ベースライン時 平成23年度	中間評価時 平成28年度
調査名	H23年県民健康・栄養調査	H28年県民健康・栄養調査
調査人数	94	116
割合	19.1%	39.7%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 ----- 直近実績値はベースライン値に比較し、20.6ポイント増加し、有意な差がみられた。(片側P値=0.000)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 -----		
(3)その他データ分析に係るコメント ----- 参考値: ①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳:35-44歳):50.3% ② " (50歳:45歳-54歳):47.8%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・改善している(有意差あり) ・中間目標値20%に達している (前期及び後期目標値を達成している)		A

指標: 10-① 学校での給食後の歯みがき実施(週時程に位置づけ)小学校

目標値: 100% (後期目標: 100%)

年次	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
調査名	教育庁保健体育課資料	教育庁保健体育課資料
調査人数	272	266
割合	81.3%	82.0%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.417
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し、0.7ポイント増加したが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.417>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
なし		
(3)その他データ分析に係るコメント		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
・変わらない(改善傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値100%に達していない		C

指標: 10-② 学校での給食後の歯みがき実施(週時程に位置づけ)中学校

目標値: 100% (後期目標: 100%)

年次	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
調査名	教育庁保健体育課資料	教育庁保健体育課資料
調査人数	152	149
割合	49.3%	46.3%
片側P値(vs.ベースライン時)	-	0.301
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。		
直近実績値はベースライン値に比較し、5.8ポイント減少したが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.301>0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
参考値: ①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳:35-44歳):50.3% ② "(50歳:45歳-54歳):47.8%		
(3)その他データ分析に係るコメント		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。		
・変わらない(悪化傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値100%に達していない		C

指標: 11 1歳6ヶ月児健康診査でフッ化物塗布を実施する市町村の増加

目標値: 90% (後期目標: 95%)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成28年度
年次	平成24年度	平成28年度
調査名	健康増進課調査	健康長寿課調査
調査人数	41	41
割合	85.4%	87.8%
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	0.375
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し、2.4ポイント増加したが、有意な差は見られなかった。(片側P値=0.375>0.05) ベースライン:35/41市町村で実施、中間評価:36/41市町村で実施		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。		
(3)その他データ分析に係るコメント		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・変わらない(改善傾向であるが、有意差なし) ・中間目標値90%に達していない		
		C

指標: 12 フッ化物歯面塗布を受けたことがある幼児の割合(3歳児)の増加

目標値: 80% (後期目標: 90%)

	ベースライン時 平成24年度	中間評価時 平成27年度
年次	平成24年度	平成27年度
調査名	乳幼児健康診査報告書(小保)	乳幼児健康診査報告書(小保)
調査人数	13,894	14,047
割合	72.4%	78.0%
片側P値 (vs.ベースライン時)	-	0.000
(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。 直近実績値はベースライン値に比較し、5.6ポイント増加し、有意な差が見られた。(片側P値=0.000<0.05)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。 ベースライン値は全市町村が対象であるが、直近値はデータが把握できない1市町を除いた値。		
(3)その他データ分析に係るコメント 参考値: ①歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加(40歳:35-44歳):50.3% ② " (50歳:45歳-54歳):47.8%		
(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。 ・改善している(有意差あり) ・中間目標値80%に達していない		
		B

指標:13 フツ化物洗口を実施している施設数の増加

目標値: 増加

(後期目標:増加)

	ベースライン時 平成23年度(H24.3)	中間評価時 平成27年度(H28.3)
年次	平成23年度(H24.3)	平成27年度(H28.3)
調査名	健康増進課調査	健康長寿課調査
実施施設数	198	235
片側P値(vs.ベースライン時)	-	-
<p>(1)直近実績値に係るデータ分析 ・直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析。</p> <hr/> <p>直近実績値はベースライン値に比較し、37カ所増加した。</p>		
<p>(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。</p> <hr/>		
<p>(3)その他データ分析に係るコメント</p> <hr/> <p>参考:ベースライン値198を100とすると、直近実績値235は119。約2割の増。</p>		
<p>(4)中間評価 ・中間評価値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。</p> <hr/> <p>・改善している(有意差検定は出来ず)</p>		
		B